

大都市高齢者基盤研究テーマ 2018年度 業績リスト (論文・学会発表・著書)

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
二重下線=常勤研究員、下線=非常勤職員、破線=研究生、連携大学院生等
波線=学振特別研究員

<平成30年度>

1 論文(誌上発表):原著

- ① 著者名、論文名、誌名、巻(号)、最初と最後の頁、発表年、(査読)、(IF値)
1. ★◎小林江里香, 野中久美子, 倉岡正高, 松永博子, 村山幸子, 田中元基, 根本裕太, 村山洋史, 渡辺修一郎, 稲葉陽二, 藤原佳典: 「地域の子育て支援行動尺度」の多世代への適用可能性と支援行動の世代別特徴. 日本公衆衛生雑誌, 65(7), 321-333, 2018. (査読あり)
2. Nemoto Y, Nonaka K, Hasebe M, Koike T, Minami U, Murayama Y, Murayama H, Matsunaga H, Fukaya T, Kobayashi E, Maruo K, Fujiwara Y. Factors that promote new or continuous participation in social group activity among Japanese community-dwelling older adults: a 2-year longitudinal study. *Geriatrics & Gerontology International* 18, 1259-1266, 2018. (査読あり) (IF=2.65, 2017)
3. ★◎村山陽, 竹内瑠美, 山口淳, 倉岡正高, 藤原佳典: 高等学校教師の地域住民への関わり意識に及ぼす要因について. 日本世代間交流学会誌, 8(1), 3-9, 2018. (査読あり)
4. ★◎村山陽, 山口淳, 山崎幸子, 藤原佳典: 高齢者における慢性型ストレスの特徴. *Journal of Health Psychology Research*, 31(1), 21-30, 2018. (査読あり)
5. ★◎Okamoto S, Okamura T, Komamura K: Employment and health after retirement in Japanese men. *Bulletin of the World Health Organization*, 96(12), 826-833, 2018. (査読あり) (IF=6.361, 2017)
6. ★◎Okamoto S: Socioeconomic factors and the risk of cognitive decline among the elderly population in Japan. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, 34(2), 265-271. (First published online: 29 October 2018) (査読あり) (IF=2.94, 2017)
7. Sakurai R, Ishii K, Sakuma N, Yasunaga M, Suzuki H, Murayama Y, Nishi M, Uchida H, Shinkai S, Fujiwara Y: Preventive effects of an intergenerational program on age-related hippocampal atrophy in older adults: The REPRINTS study. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, 2018, 33(2):e264-e272. (査読あり) (IF: 2.94, 2017)
8. Sakurai R, Yasunaga M, Nishi M, Fukaya T, Hasebe M, Murayama Y, Koike T, Matsunaga H, Nonaka K, Suzuki H, Saito M, Kobayashi E, Fujiwara Y. Co-existence of social isolation and homebound status increase the risk of all-cause mortality. *International Psychogeriatrics*, 2018 Jul 19. [Advance Access] (査読あり) (IF: 2.261, 2017)
9. 根本裕太, 倉岡正高, 野中久美子, 田中元基, 村山幸子, 松永博子, 安永正史, 小林江里香, 村山洋史, 渡辺修一郎, 稲葉陽二, 藤原佳典: 若年層と高年層における世代内/世代間交流と精神的健康状態との関連, 日本公衆衛生雑誌, 65(12), 719-728, 2018. (査読あり)

10. 橋本由美子, 渡辺修一郎, 野中久美子, 小池高史, 長谷部雅美, 村山陽, 鈴木宏幸, 深谷太郎, 小林江里香, 藤原佳典: 独居高齢者の配偶関係からみた類型が2年間の健康状態の変化に及ぼす影響—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究(CAPITAL study)より. 日本公衆衛生雑誌, 66(3), 129-137, 2019. (査読あり)
11. ★◎岡本翔平, 駒村康平: 金融リテラシーと加齢および性別の関連. Keio-IES Discussion Paper Series, 2018-018 (2018年11月24日公開) (査読なし)
12. ★◎Murayama Y, Murayama H, Hasebe M, Yamaguchi J, Fujiwara Y: The impact of intergenerational programs on social capital in Japan: a randomized population-based cross-sectional study. *BMC Public Health*, 19(1), 156, 2019. doi: 10.1186/s12889-019-6480-3 (Published online: 6 Feb 2019) (査読あり) (IF=2.42, 2018)
13. ★◎Okamoto S: Hours of work and health in Japan. *Annals of Epidemiology*, 33, 64-71, 2019. (First published online: 13 Feb 2019) (査読あり) (IF=2.804, 2017/2018)

2 論文(誌上発表): 総説

- ① 著者名、論文名、誌名、巻(号)、最初と最後の頁、発表年、(査読)、(IF値)
該当なし

3 学会発表(国際)

- ① 発表者名、発表タイトル、学会名、開催地、開催日
1. Okamoto S, Kamimura K, Shiraishi S, Sumita K, Komamura K, Tanabe K, Yokoyama N, Tsukao A, Chijiki S, Kuno S: Effects of daily steps on health care expenditure. International Health Congress, Oxford, 2018.6.28-30.
 2. Shiraishi K, Sumita K, Kamimura K, Okamoto S, Komamura K: Income level of reference group and subjective welfare - Verification of the relative income hypothesis -. International Conference on Economic Theory and Policy, Tokyo, 2018.9.16-18.
 3. Shiraishi K, Sumita K, Kamimura K, Okamoto S, Komamura K: Income level of reference group and subjective welfare - Verification of the relative income hypothesis -. The 16th International Convention of the East Asian Economic Association, Taipei, 2018.10.27-28.
 4. Kobayashi E, Sugawara I, Fukaya T, Liang J: Late retirement and volunteering among older Japanese. The Gerontological Society of America (GSA) 2018 Annual Scientific Meeting, Boston, 2018.11.14-18.
 5. Kuraoka M, Nonaka K, Murayama S, Tanaka M, Nemoto Y, Kobayashi E, Fujiwara Y: Older Adults' Self-Perceptions of Generativity and Their Daily Activity in Japan. The Gerontological Society of America (GSA) 2018 Annual Scientific Meeting, Boston, 2018.11.14-18.
 6. Mitsutake S, Koike T, Ishizaki T, Nishi M, Kobayashi E, Hasebe M, Tamiya N, Fujiwara Y: The associations of social isolation with medical and long-term care utilization among older adults in Japan. The Gerontological Society of America (GSA) 2018 Annual Scientific Meeting, Boston, 2018.11.14-18.
 7. Murayama H, Kobayashi E, Fukaya T, Ishizaki T, Liang J, Shinkai S: National prevalence of frailty in older Japanese population: From a representative

national longitudinal survey. The Gerontological Society of America (GSA) 2018 Annual Scientific Meeting, Boston, 2018.11.14-18.

8. Okamoto S: Continuing to work and cognitive functioning in later life. The 9th Annual APRU Research Conference on Population Aging, Hong Kong, 2018.12.7-8.
9. Kobayashi E: Social ties among Japanese older men and women in urban areas. International Workshop on Data-Intensive Urban Studies, Kyoto, 2019.3.1-2. (Host organization: Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)

4 学会発表（国内）

① 発表者名、発表タイトル、学会名、開催地、開催日

1. 藤原佳典, 長谷部雅美, 村山陽, 西真理子, 深谷太郎, 松永博子, 箕浦明, 根本裕太, 成田美紀, 小林江里香. 近隣ソーシャルキャピタルへの認識は性・世代により異なるか? : 実態と予知因子の検討～首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL Study) より. 第60回日本老年社会学会, 東京, 2018.6.9-10.
2. 深谷太郎, 小林江里香, 秋山弘子: 電子メール・インターネットの利用が孤独感に与える効果. 日本老年社会学会第60回大会, 東京, 2018.6.9-10.
3. 長谷部雅美, 野中久美子, 高橋知也, 松永博子, 小池高史, 根本裕太, 深谷太郎, 村山陽, 小林江里香, 藤原佳典: 独居高齢者における継続的な社会参加が生活機能と精神的健康の良好さに及ぼす影響—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) より—: 日本老年社会学会第60回大会, 東京, 2018.6.9-10.
4. 小林江里香, 菅原育子, 深谷太郎: 高齢期のワーク・ライフ・バランスと主観的ウェルビーイング—男女差の検討. 日本老年社会学会第60回大会, 東京, 2018.6.9-10.
5. 小林江里香: 全国高齢者パネル調査の紹介—データの特徴と注意点. 自主企画フォーラム「全国高齢者パネル調査データを分析してみませんか—SSJDA公開データを用いた二次分析への招待」. 日本老年社会学会第60回大会, 東京, 2018.6.9-10.
6. 小林江里香: 指定討論—幸福感の年齢差が一貫しない理由に関する論点整理. 自主企画フォーラム「幸福感の年齢差と加齢変化; 発達科学における再現可能性」. 日本老年社会学会第60回大会, 東京, 2018.6.9-10.
7. 松永博子, 長谷部雅美, 村山陽, 西真理子, 深谷太郎, 根本裕太, 成田美紀, 小林江里香, 藤原佳典: 首都圏高齢者の就労状況の実態とその特徴—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) より—. 日本老年社会学会第60回大会, 東京, 2018.6.9-10.
8. 村山幸子, 小林江里香, 倉岡正高, 野中久美子, 安永正史, 田中元基, 松永博子, 村山洋史, 渡辺修一郎, 藤原佳典: 世代性の規定要因に関する探索的検討—都市部高齢者を対象とした調査から—: 日本老年社会学会第60回大会, 東京, 2018.6.9-10.
9. 村山陽, 山口淳, 長谷部雅美, 山崎幸子, 藤原佳典: 地域高齢者における子どもとのふれ合いに伴う感情体験と抑うつ傾向との関連. 日本老年社会学会第60回大会, 東京, 2018.6.9-10.
10. 成田美紀, 長谷部雅美, 箕浦明, 村山陽, 松永博子, 深谷太郎, 根本裕太, 小林江里香, 新開省二, 藤原佳典: 地域住民における世代別に見た共食頻度と主観的健康観および精神的健康度との関連—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) より—. 日本老年社会学会第60回大会, 東京, 2018.6.9-10.

11. 根本裕太, 倉岡正高, 野中久美子, 田中元基, 村山幸子, 松永博子, 安永正史, 小林江里香, 村山洋史, 渡辺修一郎, 藤原佳典: 若年層と高年層における世代内/世代間交流と精神的健康状態との関連. 日本老年社会科学会第 60 回大会, 東京, 2018. 6. 9-10.
12. 西真理子, 長谷部雅美, 村山陽, 松永博子, 深谷太郎, 根本裕太, 成田美紀, 小林江里香, 北村昭彦, 藤原佳典: コミュニティ感覚と居住地域の物理的環境に対する評価との関連—年齢層別の検討: 首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) より—. 日本老年社会科学会第 60 回大会, 東京, 2018. 6. 9-10.
13. 藤原佳典, 長谷部雅美, 村山陽, 西真理子, 深谷太郎, 松永博子, 箕浦明, 根本裕太, 成田美紀, 小林江里香: 世代・性別に見た精神健康悪化の予測因子の検討—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study), 第 60 回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018. 6. 14-16.
14. 根本裕太, 長谷部雅美, 箕浦明, 村山陽, 松永博子, 西真理子, 深谷太郎, 成田美紀, 小林江里香, 藤原佳典: 中年層および高年層における退職が健康行動に与える影響の検討: 首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study), 第 60 回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018. 6. 14-16.
15. 村山陽, 山口淳, 長谷部雅美, 山崎幸子, 藤原佳典: 高齢者の慢性的なストレスに対するコーピングの検討. 日本健康心理学会第31回大会, 京都, 2018. 6. 23-24.
16. 小川将, 西真理子, 深谷太郎, 長谷部雅美, 野中久美子, 鈴木宏幸, 小池高史, 村山陽, 齊藤雅茂, 小林江里香, 藤原佳典: 高齢者が持つ情緒的サポートの必要性の認識と精神的健康—首都圏地域高齢者を対象とした 2 年間のパネルデータを用いた検討—. 第 31 回健康心理学会. 京都. 2018. 6. 23-6. 24.
17. 白石憲一, 隅田和人, 上村一樹, 岡本翔平, 駒村康平: 準拠集団の所得水準と主観的厚生—相対所得仮説の検証—. 日本経済学会 秋季大会, 東京, 2018. 9. 8-9.
18. 藤原佳典, 小川将, 高橋知也, 村山陽, 山口淳, 鈴木宏幸: 世代間交流を用いた SOS の出し方教育プログラムの開発—試作版開発のプロセス—. 第 9 回日本世代間交流学会, 兵庫, 2018. 10. 6.
19. 村山陽, 山口淳, 藤原佳典: 地域ボランティアとの世代間交流が高校生の進路選択に及ぼす影響: 3 年間の縦断調査から. 日本世代間交流学会第 9 回大会, 兵庫, 2018. 10. 6.
20. 小川将, 藤原佳典, 高橋知也, 村山陽, 山口淳, 鈴木宏幸: 世代間交流を用いた SOS の出し方教育プログラムの開発—高齢者ボランティアの意識に与える効果—. 第 9 回日本世代間交流学会, 兵庫, 2018. 10. 6.
21. 村山陽, 長谷部雅美, 高橋知也, 藤原佳典: 地域の高齢者に対する世代間援助の授受が若中年者の世代性の発達に及ぼす影響. 第 13 回日本応用老年学会大会, 東京, 2018. 10. 20-21.
22. 藤原佳典, 高橋知也, 野中久美子, 松永博子, 長谷部雅美, 根本裕太, 村山洋史, 小池高史, 南潮, 深谷太郎, 村山陽, 小林江里香: 高齢労働者は就労理由の差異により健康への影響が異なるか—ESSENCE 研究より—. 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 福島, 2018. 10. 24-26.
23. 深谷太郎, 杉澤秀博, 村山洋史, 石崎達郎, 新開省二, 小林江里香: 居住地規模による死亡と要介護の発生率の比較—全国サンプルによる縦断調査 JAHEAD から—. 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 郡山, 2018. 10. 24-26.
24. 小林江里香: 住民調査にみる地域の子育て支援の現状. 自由集会「世代間交流によるコミュニティ再生を考える会Ⅶ—多世代でつなぐ地域共生社会の実現—». 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 郡山 (福島), 2018. 10. 24-26.

25. 小林江里香, 野中久美子, 倉岡正高, 村山洋史, 村山幸子, 田中元基, 根本裕太, 松永博子, 村山陽, 渡辺修一郎, 稲葉陽二, 藤原佳典: 地域住民による子育て支援と子育て世代の居住満足度との関係. 第77回日本公衆衛生学会総会, 福島, 2018. 10. 24-26.
26. 倉岡正高, 野中久美子, 村山幸子, 田中元基, 根本裕太, 小林江里香, 藤原佳典: ジェネラティブティと精神的健康状態の関連について. 第77回日本公衆衛生学会総会, 郡山, 2018. 10. 24-26.
27. 村山幸子, 野中久美子, 倉岡正高, 田中元基, 根本裕太, 小林江里香, 藤原佳典: 住民参加型ワークショップ「お互いさまゲーム」の開発: 生活支援ニーズの質的分析. 第77回日本公衆衛生学会総会, 郡山, 2018. 10. 24-26.
28. 村山陽, 長谷部雅美, 西真理子, 松永博子, 成田美紀, 箕浦明, 根本裕太, 小林江里香, 深谷太郎, 藤原佳典: 高齢者における世代間援助の授受と主観的健康感の相互関係: 首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITALstudy) より. 第77回日本公衆衛生学会総会, 福島, 2018. 10. 24-26.
29. 岡本翔平, 小林江里香, 深谷太郎, 村山洋史, 新開省二: 男女の健康格差: Male-female health survival paradox. 第77回日本公衆衛生学会総会, 郡山, 2018. 10. 24-26.
30. 岡本翔平, 駒村康平: 金融リテラシーはどのように形成されるのか-金融リテラシー調査を用いた分析-. 2018年生活経済学会関東部会, 東京, 2018. 11. 24.
31. 小林江里香: 全国高齢者パネル調査のこの10年-新コホートの追加と新たな展開. 第18回パネル調査・カンファレンス, 東京, 2018. 12. 17 (主催: 慶應義塾大学パネルデータ・設計解析センター, 共催: 大阪大学社会経済研究所行動経済学研究センター, 一橋大学経済研究所, 東京大学社会科学研究所)
32. 根本裕太, 長谷部雅美, 村山陽, 松永博子, 西真理子, 深谷太郎, 成田美紀, 箕浦明, 小林江里香, 藤原佳典: 現役世代における交流頻度と精神的健康の横断的・縦断的関連の検討: 首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究. 第29回日本疫学会, 東京, 2019. 1. 30-2. 1.

5 著書等

1. 小林江里香: 高齢者の社会関係・社会活動. 松田修 (編) 「最新老年心理学-老年精神医学に求められる心理学とは」, ワールドプランニング. Pp. 155-173, 2018.
2. 鈴木宏幸, 小川将, 高橋知也, 村山陽, 山口淳, 藤原佳典: 革新的自殺研究推進プログラム研究事業、「高齢者ボランティアと協働するソーシャル・キャピタル強化による自殺対策の推進に向けた研究」報告書, 2018. 5
3. 東京都健康長寿医療センター研究所 (東京都老人総合研究所) ・東京大学高齢社会総合研究機構・ミシガン大学: 中高年者の健康と生活 No. 5 「長寿社会における暮らし方の調査」2017年調査の結果報告. 2019. 2.
4. 岡本翔平: 人生100年時代を見越した資産選択 金融リテラシーに着目して. 日経リサーチレポート. 2019. 3. 20.